

平成 31 年度茨城県立笠間高等学校自己評価表

目指す学校像	○あいさつや礼儀を尊び、誠実な人間を育てる学校 ○常に勤勉な態度を養い、職業人として必要な学力を育てる学校 ○自主自律の精神を育み、一人一人の進路希望を実現する学校 ○普通科、美術科・メディア芸術科が切磋琢磨し、教育の質を高められる学校				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況	
【成果】 ・授業におけるアクティブ・ラーニングの定着が図られつつある。 ・進学希望者の 98%が進学を決定し、就職希望者の 100%が就職を決定した。 ・国公立大学 5 名を含む 29 名が大学に合格した。そのため、国公立大学合格者が 10 年連続となった。 ・登校指導や服装頭髪指導の徹底により、服装や頭髪の乱れは改善している。 ・「道の市」「笠高キッズ」「笠間浪漫」などの地域連携行事や笠間駅周辺の清掃ボランティア活動等に参加する生徒が増えてきている。 【課題】 ・中学校段階までの基礎学力の定着が不十分な生徒や、特別な支援を必要とする生徒がいる。 ・進学希望者に対する、教育課程編成を含む進学指導体制の充実が必要である。 ・問題行動の数は減少しているが、心の問題を抱える生徒が少なからずいる。 ・1 年生は夏休み終了まで全員部加入を行っているが、その後の部活動の定着率があまり高くない。	基礎学力の定着及び学力の向上に向けた取組の充実と、特別な支援を必要とする生徒への支援体制の整備	①アクティブ・ラーニングを中心とした授業形態の工夫・改善を積極的に行うことにより、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。	A	B	
		②生徒の興味関心を引き寄せる授業や I C T（電子黒板等）を活用した授業等を展開することにより、授業の楽しさを伝え、学習習慣の確立や学力の向上を図る。	B		
		③家庭や関係機関との密な連携や情報の共有化を通して、特別な支援を必要とする生徒への学習支援や適切な対応に努める。	B		
		④体罰によらないきめ細かな指導と教育相談体制の充実を図る。また、学年間、教員間での統一した生徒指導を行うことにより、非行やいじめの未然防止を始め、SNS トラブルやスマホ利用をめぐる新たな問題や課題にも迅速に対応する。	A	A	
	問題行動の未然防止や新たな課題への迅速な対応及び家庭や地域等との連携の強化	⑤家庭、地域社会及び関係機関との連携強化を図るとともに、情報共有のもと協力して生徒指導を行う。	A		
		主体的な進路選択と、その実現のための具体的道筋を考え、行動する意識と態度の育成	⑥3 年間を見通した体系的進路指導を計画的に実施することで、望ましい勤労観・職業観、進学や就職に対応できる力を育成する。	A	A
			⑦インターンシップや各種講話、「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」に係る取組等を通して主体性を育み、進路実現のための意識と態度の育成を図る。	A	
	⑧学習段階に応じて生徒の資格取得を推進し、進路実現に向けた指導を行う。1 年に 1 資格、卒業までに 3 資格取得を目標とする。		B		
	心の教育の推進と特別活動の充実	⑨奉仕活動、異校種学校との交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援し、心の教育の充実と生徒の社会性の確立に努める。	A	B	
		⑩部活動や生徒会活動への主体的、積極的な参加を促し、生徒の活力を引き出すとともに、礼節や規律を重んずる態度を養うことで、豊かな人間性を育む。	B		
	美術科・メディア芸術科の教育活動の充実	⑪質の高い指導と様々な体験活動を通して、美術や映像メディアに関する技量を伸ばし、美術や映像メディア系大学への進学を実現させる。	A	B	
		⑫「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」に係る取組を通して、美術科とメディア芸術科の教育内容のさらなる体系化と充実を図る。	B		
		⑬美術科・メディア芸術科に関する教育活動の積極的な広報活動を行う。	B		
	地域からの期待と信頼に応えるための積極的な教育活動に係る情報の発信	⑭様々なメディアを通して、学習指導や生徒指導における実践と成果、生徒の課外活動の様子など、本校の教育活動についての情報発信に努める。	A	A	
		⑮特色ある学科を有する笠間高校の様子や未来像を、様々な機会をとらえて地域社会に発信することで、魅力ある学校づくりに資する。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	授業規律と学ぶ姿勢の確立	・課題の期限内提出や授業ルールの徹底を図る。②③	A	A	・さらなるＩＣＴ活用（デジタル教科書全科目導入）。 ・俳句や作文等の指導充実させ自己表現のできる生徒を育成する。 ・家庭学習推進を行い、資格取得率を上げる。
		分かりやすい授業展開及び基礎学力の向上	・辞書や便覧、映像等の資料やＩＣＴ（電子黒板）の活用、ワークシートの工夫及びグループ活動を通して、生徒の自主的な学びを促し、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。①②	A	A	
		進路実現を視野に入れた国語指導の充実	・漢検など国語関連資格の取得を推進する。⑧	B	B	
			・作文や小論文指導を通して自己表現ができるようにする。①⑥	A		
			・短歌・俳句・読書感想文などのコンクールへの参加や読書教育を通して表現力を養う。①	B		
	地歴公民	基礎的・基本的な学習内容の定着	・高校での学習内容の基礎となる義務教育段階の学習内容を定着させるため、小単元・学習内容に応じてスモールステップに基づく基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。①②	B	B	・主権者教育に関し実施した笠間市選挙管理委員会の協力を得た生徒会役員選挙での模擬投票など、授業以外の場面でも公民的資質の育成に積極的に取り組む。
		学力向上のための指導方法の改善	・アクティブ・ラーニングやICTを適宜採り入れながら、生徒が主体的・対話的に学習に取り組む指導方法の展開に資する。①②	A	A	
		公民的資質の育成	・主権者教育・金融教育・租税教育・法教育などを通じて公民的資質を育成するとともに、社会的に有為な人物としての職業観・勤労観を育む。⑥⑦⑧⑨	A	A	
	数学	基礎学力の定着	・少人数編成授業を活用し、机間指導を充実させ、個々の生徒が達成感を味わえる授業を展開する。②	A	B	・ICT機器を生徒も活用できるよう授業準備やソフトの準備に取り組む。 ・応用問題や、過去問題などを利用し、生徒の進路実現に向けた課外を実施する。 ・数学検定の希望者・合格者の増加のために課外を充実させる。
			・アクティブ・ラーニングやＩＣＴ機器を利用した授業を通して、一人一人が主体的に授業に参加できる授業を展開する。①②	B		
		進路実現に向けた指導	・入試問題や模擬試験の過去問など、発展的内容を取り入れながら進学課外を行い、進路実現の一助とする。⑧	A	A	
			・数学検定の実施と、それに対応した課外を充実させる。⑧	A		
	理科	自然現象への興味・関心を高める指導法の工夫・改善	・実験・観察など体験的な活動や視聴覚教材の活用などを通して、科学的思考を養う。①②	B	B	・実験・観察などの体験的な活動をより多く取り入れ、科学的思考を育成する。 ・進学希望者向けの応用課題などを充実させ、各生徒の必要に応じた対応をする。
		基礎学力の定着	・授業改善等の工夫により生徒の学習意欲を向上させ、基本的な内容の確実な定着を図る。①	A	A	
		生徒の実態に応じた指導の展開	・発展的な内容を取り入れることで、上級学校への進学を目指す生徒にも対応していく。②⑥	B	A	
			・教科書準拠の問題集や小テスト等を活用し、また、必要に応じて補習を行うことで、生徒一人一人に対応する。②③	A		
	保健体育	授業内容の充実と工夫・改善	・保健では学習形態の工夫やアクティブ・ラーニング、ＩＣＴ機器を活用し、基礎的・基本的な事項の定着を図り、学習で得た知識・技能を実生活においても活用することができる授業を実践する。①②	A	A	・体力テストの結果向上のため、全クラスで補強運動を取り入れる。 ・授業ごとに生徒に目的意識を持たせ、グループワーク等を生かし生徒の主体的な学びへとつなげる。 ・ワークシートの効果的な活用を考える。
			・体育実技では安全管理に気を配り授業に集中して参加する意識と態度を育てる。生徒同士の言語活動を充実させ、生徒が主体的に取り組めるように指導を工夫していく。①	A		
		体力・運動能力の向上	・体育実技では、運動量の確保に努めるとともに、種目の特性に触れ、個人及び集団の活動を通した課題学習の実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながる授業を実践する。①	B	B	
		指導と評価の一体化	・指導と評価の一体化を進めるとともに、評価の観点を明確にして目的意識を持たせながら意欲的に取り組ませる。授業の振り返りも兼ねてワークシートも活用する。①	B	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	芸術音楽	授業内容の充実と工夫・改善	・生徒が主体的に授業に参加できるよう、実態に即した教材の選択・精選を行う。①②	A	A	・生徒が意欲を持って取り組める教材の選択と指導方法の工夫。
			・言語活動の充実を図り、表現の工夫や感じ取ったことを思考・判断し、表現する力を高める。①②	A		
		指導に生かす評価の工夫	・評価の観点を明確にすることで関心・意欲を高め、目的意識をもたせながら学習に取り組ませる。①	B	B	
			・授業や実技発表での課題や反省を評価カード等に記入させ、指導に生かす。①②	A		
	芸術美術	授業の内容充実と工夫・改善	・生徒の興味関心を引き寄せ、美術の楽しさを伝える授業を実践する。①②	A	B	・制作へ向かう意欲の向上 ・相互鑑賞をはじめとした、表現を切磋琢磨する指導上の工夫
			・文化祭等で美術棟での展示を行い、美術科・メディア芸術科と互いに作品を鑑賞し合うことで、より充実した制作活動に繋がるように指導する。②⑬	B		
		指導に生かす評価の工夫	・制作における表現を記録、発表させ、お互いに鑑賞することで対話的で深い学びの充実を図る。①	A	A	
	英語	基礎学力の定着と応用力の育成	・少人数授業の展開により基礎的知識や基礎的コミュニケーション能力を定着させるとともに、課外授業を通して上級学校進学に対応できる学力を身に付けさせる。①③	B	B	・生徒の興味・関心を引く指導法や、教材づくりに工夫をこらす。 ・少人数クラスを生かした授業展開と授業内容の充実を図る。 ・家庭学習の習慣を身に付けさせるための工夫・改善に取り組む。
			・家庭学習の習慣を身に付けさせるために、単語演習やワークブックなどの課題を適宜出していく。①	B		
		指導内容の充実と工夫・改善	・補助教材やワークシート等の工夫を図り個々の生徒の実態に応じた指導と支援に努める。①②③	A	A	
			・生徒全員が主体的に授業に参加できるよう、コミュニケーション活動などの表現活動を積極的に授業に取り入れるとともに、観点別評価方法の工夫・改善を図る。①②	A		
	家庭	生徒の実態に応じた指導法の工夫	・自作課題を作成し、ICTを活用し学ぶ内容のイメージが伝わりやすい授業を心掛け、楽しさを伝え、生徒の主体的取り組みを促す。①②	A	A	・学んだことを自分の言葉で表現し伝えられる授業を目指し、評価方法の工夫に取り組む。 ・実習において手順をわかりやすく説明できるように工夫改善に努める。
			・アクティブラーニングなどの指導法の工夫・改善に努めることで、生徒の思考力の伸長を図り、実生活で活用できる力を育てる。①②	B		
			・補助教材、実物提示、ワークシートなどの充実を図り、興味・関心を高めさせる。①②	A		
		実験・実習の充実	・10分の5程度の実験実習を取り入れ、T Tの授業を活用したきめ細やかな指導を通して生活力や技術力を高める。①②	A	A	
			・被服製作や調理実習を通して、創造的に製作する態度や「本当に使える力」を見据えた技術の習得を目指す。①	A		
	情報	情報化社会に対応できる能力と知識を身に付ける	・ネット検索を利用した情報収集や、ワープロ・表計算・プレゼンソフトの基本的なパソコンスキルを身に付けさせるとともに、製作物を発表する体験を通して、実践的な活用能力を育成する。①②	B	B	・パソコン操作に対し苦手意識を持っている生徒への指導法を工夫し改善に努める。
			・身近な事例を取り入れ、著作権や個人情報の管理など、情報モラルの向上を図る。①	A		
		資格取得の奨励	・進路実現に向けた取り組みとして、ビジネス文書実務検定などの各種検定受験を奨励する。⑥⑧	A	A	
	商業	授業を分かりやすくするための工夫改善	・生徒の実態や能力に応じた学習支援や適切な対応に努める。①②③	A	A	・ビジネスマナーの定着と、資格取得への意欲を高める働きをする。
			・ICTを活用し、個に応じたきめ細かな指導と支援に努める。②	A		
		職場環境の変化に対応できる資質と能力の向上と資格取得の推進	・コンピュータの基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用し問題を解決できる能力を育む。①②	B	B	
			・各種検定試験に対応した授業内容を取り入れ、資格取得を推進する。⑥⑧	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教 務	学力の向上と特別な支援を必要とする生徒への支援	・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を充実させ思考力・判断力・表現力の伸張を目指しアクティブ・ラーニングやICT機器を取り入れた授業が行えるよう環境整備に努める。①②③	A	A	・4F教室での電子黒板のケーブルボックスの設置場所をどうするか。 ・1年間の仕事の流れがわかるようにする。 ・学校案内の校正は多くの人に見てもらう。 ・外国人特別選抜で入学した生徒など、個別対応の職員の体制を作る。
		・支援を要する生徒に個別的・組織的対応ができるよう関係者の連携を図る。①②③	B		
		・資格取得を推進し、学習に目的意識をもたせることで学習習慣の確立を図る。①⑥⑧	A		
	魅力ある学校づくりと積極的な情報発信	・ホームページ更新を学年・学科・部活動など多くの部署に促し、魅力ある学校づくり及び教育活動の情報発信し、美術科・メディア芸術科の周知を図り受検生の確保に努める。⑤⑫⑬⑭⑮	A	A	
		・奉仕活動、異校種間との交流、地域連携行事への生徒の主体的参加を支援し、かつ礼節や規律を重んじる態度を育てる。⑨⑩	A		
生徒指導	基本的生活習慣の定着と規範意識の育成	・一人一人の生徒の特性を十分に理解して信頼関係を築き、生徒が自らの意志で学校や社会のきまりを守り、自己の言動や生活態度を律して、より好ましいものに高めようとする力を育み、安心して学校生活を送ることができる環境をつくる④⑤	A	A	・教員や生徒のルールに関する共通認識の徹底 ・特別な配慮が必要な生徒への支援体制の構築 ・校外でのマナーを向上させる指導
		・保護者、学年内・外、関係機関との連携を密にし、情報共有をはかり、統一した組織的かつきめ細かな生活指導を行う。④⑤	A		
	事故・問題行動の未然防止と教育相談のいっそうの充実	・いじめに向かわない生徒を育成するとともに、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめを正確に認知し、防止等のための取り組みを行う。④⑤	A	A	
		・非行防止、防犯、交通安全、ネット安心安全利用教育等の講演会を実施し、生徒の安全やスマホのマナーに対する意識を高めることで、事故・問題行動の未然防止を図る。④⑤	B		
		・教員が生徒面談に積極的に取組むとともに、スクールカウンセラーや外部機関及びスクールソーシャルワーカーの活用によって、教育相談をより充実させる。④⑤	A		
進路指導	3年間を見通したキャリア教育の推進	・外部講師や卒業生を積極的に活用し、進路に対する意識を高めるとともに、コミュニケーション能力を育成する。③⑥	A	A	・新テスト保留時期の学校としての対応。 ・進路学習室の活用
		・企業や上級学校の見学、インターンシップ等の実体験を通して、進路に対して具体的なイメージを持たせる。③⑦	B		
	進路希望の実現	・生徒の進路選択の幅を広げるため、資格取得を推奨するとともに、基礎学力を定着させ、応用力を付けさせるための支援体制を強化する。⑧	B	B	
		・進路資料室を整備し、進路ハンドブックの内容を充実させ、進路実現に向けて、生徒が自主的かつ主体的に行動するように促す。⑥	A		
保健厚生	生徒・職員の健康管理の充実および保健意識の高揚	・担任と連携し未受診者の確認を徹底する。各種検診を通して自身の健康について振り返り健康への意識を高める④⑤	A	A	・生徒・職員の保健意識を高め、疾病や感染症の予防に努める。 ・防災避難訓練を生徒が体験できるように検討し、防災意識をより高め、非常時に適切な行動がとれるようにする。 ・生徒・職員が安全及び健康に学校生活を送れるように安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努めていく。
		・「保健だより」等を通して、生徒の保健意識を高め、疾病、特に感染症の予防に努める。④⑤	A		
	学校環境の美化と整備	・校舎内外の自主的な清掃作業の習慣化に努める⑨ ・生徒・職員が安全及び健康に学校生活を送れるように、安全点検を年2回実施し安全の確保・保健衛生・学校環境美化に努めていく。⑨	B	B	
	防災教育の推進と防災意識の高揚	・地域と連携した防災訓練を実施し、震災などの非常時に適切な行動がとれるようにする。⑤ ・防災避難訓練の実施内容について検討し、非常時に適切な行動がとれるようにするとともに、防災意識をより高める。⑤	A	A	
特別活動	部活動の活性化	・顧問の特性や個性を活かし、複数人体制で部活動の活性化を図る。⑩	B	B	・部活動参加生徒の実数を増やせるような方策の検討。 ・予算の適切な配分と執行。
		・部活動顧問会議などを通して、部活の活性化と円滑な活動、及び適切な予算配分を進める。⑩	B		
	学校行事の生徒の自主的実践的参加	・生徒会を中心に、全校生徒が意識をもって行事の企画・運営ができるようにする。⑨⑩	A		
		・生徒の意見を積極的に取り入れ、学校行事の充実と活性化を図ることで、生徒の自主性を育む。⑨⑩	A	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		B
特別活動	ホームルーム活動を通し生徒の自己形成を図る	・L H Rの年間指導計画を工夫することで、L H R活動の時間を確保し、充実させる。⑨⑩	B	A	・L H R活動の積極的活用と各学年・クラスとの連携。
		・J R C, 生徒会を中心としたボランティア活動や、生徒の地域連携行事参加を進め、地域交流を図る。⑨⑩	A		
渉外	P T A活動の活性化と学校教育の理解	・負担無く活動できる環境であることを機会ある毎に広報し、P T A活動への抵抗感を和らげ、P T A諸行事への積極的な参加を呼び掛ける。⑤⑬	B	B	・これからのP T Aの在り方を模索する。
		・授業参観や懇談会等の機会を通し、学校が抱える課題や現状を保護者に知らせ、保護者と教師の協力体制をつくる。③⑤⑬	A		
図書	読書環境の整備・充実	・除籍作業を適宜行うことで、書架・書籍の整理整頓に努める。②	A	A	・「朝の読書」の意義をさらに周知徹底し読書の楽しさを知る時間とさせる。 ・図書委員の仕事を活性化し、書架や書庫を利用しやすいように整備していく。 ・授業に役立つ資料を備え、学習支援ができる環境を整える。
		・実用書や芸術専門書等を導入し、図書館利用者の増加を目指す。②⑪	B		
		・図書館の装飾を含め読書環境の整備をし、利用しやすい図書館づくりに努める。②	A		
	図書委員会の活性化	・図書委員に当番の仕事についての的確に伝えることで図書委員としての自覚を促す。⑨⑩	A	B	
		・図書の整理や受け入れ作業などの具体的な仕事を図書委員に与え、その活動時間を確保することで主体的な活動を促す。⑨⑩	B		
	「朝の読書」の充実・管理	・「朝の読書」の意義と、静寂を保つ大切さを周知徹底していく。①②	B	B	
		・学級文庫を充実させるための書籍の追加や入れ替え作業を定期的に行う。②	A		
事務	財務会計の適正な執行	・予算執行においては、各担当部署からの要望・内容を精査し、適正かつ計画的な予算執行を行う。特に、「一人一人が輝く学校づくり推進事業」に係る予算においては、担当者と連絡調整を適時行い、計画的な予算執行に努める。	A	A	・I C T教育のための環境整備を進める。 ・老朽化による修繕個所の増加に対し、優先順位を見極め効率的に対応する。 ・生徒の健康管理を第一に考慮しつつ省エネに努める。 ・就学支援金等の事務処理を円滑に進める。 ・個人番号の運用と適正な個人情報の管理を行う。
		・財務会計規則等の諸規則に則り、適切な判断により、適正かつ効率的な執行を行う。	A		
	施設設備の適切な維持管理	・各担当部署の要望に基づき、備品の更新等を計画的かつ適正に行い、教育環境の整備に努める。	A	B	
		・安全な教育環境を保持するため、施設設備等の修繕・改修を速やかに行い、適正な対応に努める。	B		
	温室効果ガスの排出抑制と省エネ対策	・電気・ガス・水道量の記録管理を継続し、漏電漏水等の防止に努め、尚且つ省エネルギーの推進を行う。	A	B	
		・グリーン購入法の推進により、環境にやさしい製品の購入に努める。	B		
美術科	教育活動の充実と楽しい授業づくり	・生徒が意欲的に制作に取り組めるよう、授業内容や題材の工夫・改善を行う。①②⑩⑪	A	A	・自主制作へ向かう意欲の向上 ・生徒情報に関する教員間の情報共有と連携 ・各活動内容の再検討と改善
		・生徒の実態に応じて、複数教員で指導方法を検討し、連携を取りながら実技指導を行う。①②③	A		
	進路指導体制の充実	・早い段階から進路へ向けて意識を持つよう指導し、学年を越えて情報交換を行うことで一貫した進路指導を行い、主体的な進路の実現を目指す。⑥⑦⑪	A	A	
	主体的な体験活動の充実	・地域連携行事等を充実させ、生徒が主体的に活動しながら美術の諸能力とコミュニケーション能力の育成に努める。⑨⑪⑫⑬	B	B	
	教育活動の積極的広報	・質の高い作品制作になるよう指導方法の工夫をするとともに、生徒が主体となって作品を広報できるよう環境を整える。⑫⑬⑭⑮	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
メディア 芸 術 科	教育活動の充実	・専門の授業での言語活動，表現力を高める授業形態の工夫・改善，異校種交流や地域交流活動等の内容充実など，授業と行事を体系化することによって，映像メディアにおける「伝える力」を伸長する。①②⑥⑪⑫	B	B	・授業内容の整理・ワークシート等の整理 ・実習内容に合わせた教材の選定 ・物品管理のルール化 ・進路指導の早期化 ・実技指導・進路指導・職業観育成の系統化 ・情報発信方法の拡大
	教育活動の積極的広報	・ホームページによる情報発信を行うとともに，地域主催のコンクール等に積極的に応募することで，映像メディアを媒体としたメディア芸術科の周知と地域交流を進める。⑬⑭⑮	B	B	
	進路の実現	・学習に対する目的意識を持たることによって，進路実現に必要な学力および表現力を伸ばし，進路の実現を図る。①②⑥⑦⑪⑫	B	B	
1 学年	基礎学力の定着	・積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れ，生徒たちが主体的に学べる授業を展開する中で，基礎学力・思考力・表現力の定着・向上に努める。①②	B	B	・基本的生活習慣の確立や問題行動への未然防止や対応のための定期的な学年集会を計画と実施。 ・進路選択・決定に向けたガイダンスの開催やサポートの充実。
	基本的生活習慣の確立	・保護者と連絡を密に取り，生徒の状況を把握し，極力欠席・遅刻をさせないよう指導していく。④⑤	A	B	
		・生徒たちと丁寧に接しながら，他者を理解し，優しい心を持った生徒を育てていくように努める。④	B		
	非認知能力の向上	・総合的な探究の時間「LIFE」や学校生活を通して，内発的に物事に取り組もうとする意欲の向上に努める。⑨⑩	B	B	
		・特別活動への積極的な参加を促し，ひとつのことに粘り強く取り組む力を向上させる。⑨⑩	B		
2 学年	基本的生活習慣の確立	・服装頭髪指導の徹底を図り，笠間高校生としての誇りと自覚を促す。④⑤	A	A	・週末課題等を利用し，自分で課題を見つけ，課題解決のために自ら取り組む力を養う。 ・生徒たちの当たり前のレベルを上げ，社会に送り出す。
		・保護者との連携を図り，欠席・遅刻・早退を習慣化させない指導に努める。⑤	B		
	非認知スキルの向上	・学校生活や修学旅行等を通して，ひとつのことに誠実に取り組み，やり抜く力を向上させる。⑨⑩	A	A	
	進路に応じた基礎学力の確立	・生活の指導や授業において，アクティブ・ラーニングの手法や ICT を利用するなど工夫し，生徒が深く理解し，思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるよう指導に努める。①②	B	B	
		・各種進路行事，課外，資格取得，インターンシップなどをとおして，進路に目的をもち，努力を重ねることで充実感や向上心をもつことができるように，進路意識の育成を目指す。⑥⑦⑧	A		
3 学年	基本的生活習慣と常識ある態度の育成	・学習指導や生活指導を通して充実感や向上心をもち，自己肯定感を高められるように努める。④⑤⑥	B	B	・欠席・遅刻・早退者への対応 ・進学希望者（一般受験）に対する対策
		・卒業後の進路を見据えて，基本的生活習慣や規則正しい生活の大切さを認識させ，社会人としての常識ある態度を身に付けさせる。③④⑤⑥	A		
	進路に応じた学力の向上	・授業第一とし，アクティブ・ラーニングを取り入れるなど授業の工夫をすることによって，思考力，判断力，表現力をさらに伸ばし，生徒が自ら学ぶ意欲を引き出せるように努力する。①②⑥	A	A	
	進路指導の充実	・進路ガイダンスなどや面接指導，個別面談を実施し，希望する進路の実現に向けた指導を行う。⑤⑥⑧	A	A	

※ 評価規準：A：十分達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった